

活動目標 すこやかに育て いわてっ子

PTAいわて

学校教育目標

1. 正しく判断し、行動できる人〈知性〉
2. 勤労と責任を重んずる人〈情操〉
3. 心身ともに健康で安全な生活ができる人〈健康〉



JA 共同学校花壇作り



PTA 親子校内清掃活動



北上みちのく芸能祭りパレード



体育祭「鬼剣舞」

北上市立飯豊中学校 PTA

No.176

令和5年12月1日発行

発行

一般社団法人岩手県PTA連合会
盛岡市みたけ三丁目38-20

☎019-641-6444

E-Mail: pta@iwate-pta.or.jp

URL: http://www.iwate-pta.or.jp

印刷

山口北州印刷(株)
盛岡市青山四丁目10-5

☎019-641-0585

本校は北上市の北端に位置する中学校で、田園風景に囲まれた中に校舎が建っています。北上市は人口9万2千人ほどで、自然と工業が融合した活気のあるまちです。本校の学区にも工業団地があり、生徒は多様な環境の中で生活しています。

本校では地域の方にご指導していただいて体育祭で「鬼剣舞」「さんさ」を披露したり、北上みちのく芸能祭りパレードに参加したりするなど、地域との関わりを大切にしながら教育活動を行っています。

(事務局 苫米地俊亮)

主な内容

- ・第71回日本PTA全国研究大会
 広島大会…………… 2
- ・三行詩コンクールの審査結果… 3～4
- ・情報提供「中体連から見た
 部活動の地域移行」…………… 5～6
- ・北から南から…………… 7
- ・全国・東北での受賞者を紹介…………… 8

第71回日本PTA全国研究大会広島大会

期日：令和5年8月25日(金)～26日(土)
 場所：広島県広島市・東広島市・福山市・呉市・府中町

『変化の時代に向け、PTA自身が学びの変革を！』見つけ 考え かわろつや ぶち楽
 しいで!!〜広島から全国へ』を大会スローガンに、今年度の日本PTA全国研究大会が広島
 県内5市町で開催され、本県からも15名の会員が参加しました。
 大会の様子を2回に分けて報告します。第1回は、第3分科会に参加した、盛岡・見前南
 中PTAの福田育英さん(県P連副会長)です。

第3分科会では、岩手県で
 も進められているコミュニ
 ティ・スクールの土台となる

『学校教育と地域連携をどう
 進めていくか』について、シ
 ビックプライド(地域への誇
 りと愛着)の観

点から進めた事
 例などを紹介し
 ていただきました。



具体的には、
 子ども達がお気
 に入りの場所
 写真撮影を行
 い、それにお気
 に入り理由を付
 したポータル
 マップを作成
 し、続いて、大
 人も同様に写真
 撮影を行いポ
 タブルマップに
 追加するという
 取組みでした。

このようにして作成された
 ポータルマップは、今まで
 に気づくことのなかった『地
 域の魅力発見』や『地域の活
 性化』につながる共、地
 域を昔から支えている方々に
 も地域の魅力の再発見などが
 伝播するといった事例でした。



また、この取組みからは、
 『小さく生んで大きく育てる』
 ために最初から全部を決める
 のではなく、後から参加をす
 る人たちに『関わりしろ』を
 残しておくことの重要性も確
 認することが出来ました。

さらに、全体会の記念講演
 では、人工知能研究者である
 黒川伊保子さんから脳科学に
 基づく子どもとの関わり方に
 ついてお話があり、講演の中
 で『心理的安全性』
 の内容として、子ど
 もとの会話の中で、
 何でもないことを話
 せ、相手に安心感を
 与えるため『いいね』
 か『わかる』という
 対応で相手の話を受
 ける。また、もしも
 間違った内容である

場合でも、『そうなんだ』や『そ
 んなこともあるんだ』などの
 言葉を返して正しいことを教
 えてあげるといってお話があり
 ました。

このようにして相手の自己
 肯定感を下げないことが『人
 生の敵になるか、師となるか』
 の分かれ道であるということ
 も学ぶことが出来ました。

岩手県では、全国に先駆け
 て昭和40年から教育振興運動
 が進められておりますが、近
 年の人口減少や教職員の負担
 増などの対策として学校運営
 協議会の設置やコミュニティ・
 スクールの導入も進められて
 います。このような近年の動
 向に対する課題の確認や脳科
 学に基づく子どもとの接し
 方、素質の伸ばし方を学ぶた
 めの良い機会となりました。
 ありがとうございます。

(第3分科会の報告
 福田 育英)



家庭で話そう！

我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ

岩手県PTA三行詩コンクール 入選作品の紹介

今年度の岩手県PTA三行詩コンクールの審査結果をお知らせします。

小学生の部には28校から338点、中学生の部には12校から382点、一般の部には29PTAから103点の応募がありました。

最優秀賞・優秀賞・優良賞の上位三賞(計15点)は、全国コンクールに推薦いたしました。また、12月3日(日)に開催予定の岩手県PTA連合会年次表彰式で表彰することとしております。



作品ひとつひとつをじっくり読ませていただきました

小学生の部

(338点)

★最優秀賞

北上市立笠松小学校

3年 高橋 杏珠

「もうパパといっしょにねてあげない。」

わたしがおこると言う言葉朝にはならんでねてるけど。

★優秀賞

花巻市立大迫小学校

2年 藤根常大朗

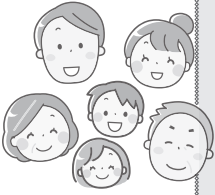
ぼくがわらうと

みんながわらう

きもちがいいな。

えがおがいっぱい

きもちがいいな。



★優秀賞

盛岡市立山岸小学校

6年 茅森 蒼太

平日の

めざまし時計は

母の声

休みの朝は

ぼくがアラーム



★優良賞

盛岡市立山岸小学校

6年 及川 大成

いのち必ず終わりは来る。

いのちあるうち後悔なく

チャレンジしていこう。

苦しくても笑顔でちよつと

ふんばって

がんばっていこう!!

★優良賞

盛岡市立本宮小学校

3年 畠山 杏榎

妹がずるがしこくて

はらが立つ

でもこまっていると

たすけたい。

★優秀賞

盛岡市立城西中学校

2年 工藤 攸翔

「何かたべたい」毎日母に僕は言う

もうつなぐことのなくなった

母の手で

にぎってくれるおにぎりが

毎日のおやつ 心の栄養



★奨励賞

盛岡市立大新小学校

3年 鈴木 直翔

花巻市立八重畑小学校

1年 伊藤 結愛

一関市立黄海小学校

3年 太齊 優人

中学生の部

(382点)

★最優秀賞

盛岡市立上田中学校

3年 鈴木 航

毎試合必ず聞こえてくる応援

練習の送りむかえ

5年間、一人で続けてきた

わけじゃない

★優秀賞

陸前高田市立高田第一中学校

3年 矢作 琴葉

言い合いになる事もあるけど

いつも人の心配ばかりする

そんな母のように

私はなりたい

★優良賞

北上市立北上中学校

3年 菅原 絆生

わかったよ

自分の名前に込められた

両親の願い その意味を

★優良賞

陸前高田市立高田第一中学校
3年 村上 暁斗

「ありがとう」
喉の奥に引っかかったまま
出てこない
反抗期の自分デス

★優秀賞

盛岡市立河南中学校PTTA
高屋敷理恵

「早く大きくなつて」
が、いつのまにやら
「もう少し子供のままでいて」
親もけっこうわがままですね

★優良賞

宮古市立新里小学校PTTA
澤口 嘉治

捨てずに出てきた通信簿
似たり寄ったり
うれしはずかし
やっぱり父娘。

★奨励賞

陸前高田市立高田第一中学校
3年 鶴嶋 祐成
陸前高田市立高田第一中学校
3年 佐々木永遠
陸前高田市立高田第一中学校
3年 熊谷 琉花

★優秀賞

花巻市立八重畑小学校PTTA
晴山 春佳

娘と眠る 父親の
嬉しそうな表情
「今だけだから」と
8年経っても 言っている

★奨励賞

花巻市立若葉小学校PTTA
阿部山麻里江
花巻市立八重畑小学校PTTA
晴山 竜弥
奥州市立岩合堂小学校PTTA
高野 渉
奥州市立岩合堂小学校PTTA
田中 香
一関市立黄海小学校PTTA
後藤 純一
九戸村立伊保内小学校PTTA
平中 幸子

一般部

(103点)

★最優秀賞

花巻市立花巻北中学校PTTA
村木 由香

人混み避けて 自然求めて
行った車中泊
四人でギョウギョウ 文句を
言つても
家族はやっぱり 密がいいね。

★優良賞

奥州市立岩合堂小学校PTTA
澁谷 玲奈

給食の牛乳嫌いなはずなのに
残さず飲む訳聞いてみた
「牛さんにもうしわけない
でしょ」
感謝の気持ち忘れずに
6歳息子に教えられ



審査委員

岩手県小学校長会副会長
和田 英氏 (委員長)
岩手県中学校長会常任理事
久慈 孝氏 (委員)
学識経験者
菊池 敏宏氏 (委員)
岩手県教育委員会事務局生涯
学習文化財課社会教育主事
阿部 貴弘氏 (委員)

講評

岩手県PTA連合会
会長 山下 泰幸氏 (委員)
副会長 (研修委員長)
向井 隆氏 (委員)
副会長 (母親委員長)
山口 真樹氏 (委員)

審査委員

岩手県教育委員会事務局生涯
学習文化財課社会教育主事
阿部 貴弘氏

【優れていたところ】

日常の中の何気ない家族
とのやりとりや会話の情景が
浮かんだり、様々な心の内側
を表した文章が心に響いたり
する作品が多くありました。
特に、小学生の部では素直な
気持ちを表現した作品、中学
生の部では家族の支えへの気
付きを表現した作品、一般の
部では子どもの成長への喜び
を感じる半面、寂しさも感じ
るなど複雑な胸の内を表現し
た作品が印象に残りました。

三行詩という短い文章の中
で、言葉の選択、表現の工夫
が光る作品が多くあり、そう
いった作品に審査員一同感情
が揺さぶられ、作品から応援
されるような感覚さえありま
した。また、詩の内容が「絵」

【今後期待すること】

改めて、三行詩という短い
文章の中で、家族の日常や家
族に伝えたい思い等をいかに
表現するかを意識することが
重要だと感じました。単にそ
の表現したい日常や思いを文
章で説明するのではなく、そ
の日常や思いにふさわしい言
葉や表現方法を選び、吟味す
ることが、より読み手の心に
響く三行詩の作品につながり
ます。



作品を並べての最終選考です

中体連から見た部活動の地域移行

岩手県中学校体育連盟 理事長 小野 甚市氏

はじめに

近年、運動部活動を取り巻く環境は大きく変化しています。平成25年に、文部科学省から示された「運動部活動で



の指導のガイドライン」により、指導における体罰・暴言の根絶に向けた取組をこれまで以上に進めることとなり、本連盟でも「マナーアップ運動」を展開してきました。また、平成30年には、スポーツ庁から「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が示され、運動部活動を持続可能なものにするため、生徒にとって望ましいスポーツ環境を構築することが求められました。このガイドラインにより、週2日の休養日(平日1日、週末1日)を設定することやスポーツ医・科学の観点から活動時間(平日2時間程度、休日3時間程度)は、できるだけ短時間に、合理的でかつ効率的・効果的な活動を行うこととなっています。そして令和4年12月にスポーツ庁及び文化庁が「学校部活動及び新たな地域クラブ

活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を発表し、少子化の中でも将来にわたって生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会確保に向けた国の考え方を示しました。

本県運動部活動の現状

本連盟による調査では、部活動数や生徒数は年々減少傾向にあります(表1)。5年前の平成30年度と比較すると、部活動数は183部、生徒数は4,961人減少しています。

これは本県の中学校在籍生徒数が減少していることに伴い、各学校ではこれまで設置していた部活動数を維持することが困難になっていることや、令和元年8月に岩手県教育委員会が改定した「岩手県における部活動の在り方に関する方針」において、「部活動は自主的・自発的な参加により行われるものであること」、「参加を義務付けたり、活動を強制したりしないこと」を明示したことが影響していると考えられます。

年度	部活動数	生徒数
H30	1,646	25,002
R01	1,646	24,178
R02	1,568	22,939
R03	1,568	22,655
R04	1,513	21,677
R05	1,463	20,041

(単位:人)

【表1】部活動数・生徒数調査
(岩手県中学校体育連盟)

学校部活動の地域移行と中学校体育連盟

国のガイドラインでは、「学校部活動の在り方」「新たな地域クラブ活動の在り方」「学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備」「大会等の在り方の見直し」の4つを必要に対応としています。一般的に「部活動の地域移行」中体連

というイメージが強く、4つの対応全てを中体連が取り組むべきものと捉えられていると感じます。あくまでも中体連に求められている取組は、地域クラブ活動の参加者のニーズ等に応じた「大会等の在り方の見直し」であり、部活動の地域移行は、岩手県や県内33市町村、競技団体も含めた関係機関が一体となって岩手の子供の環境を構築していくことであることを、改めて整理しながら取り組んでいく必要があると考えています。

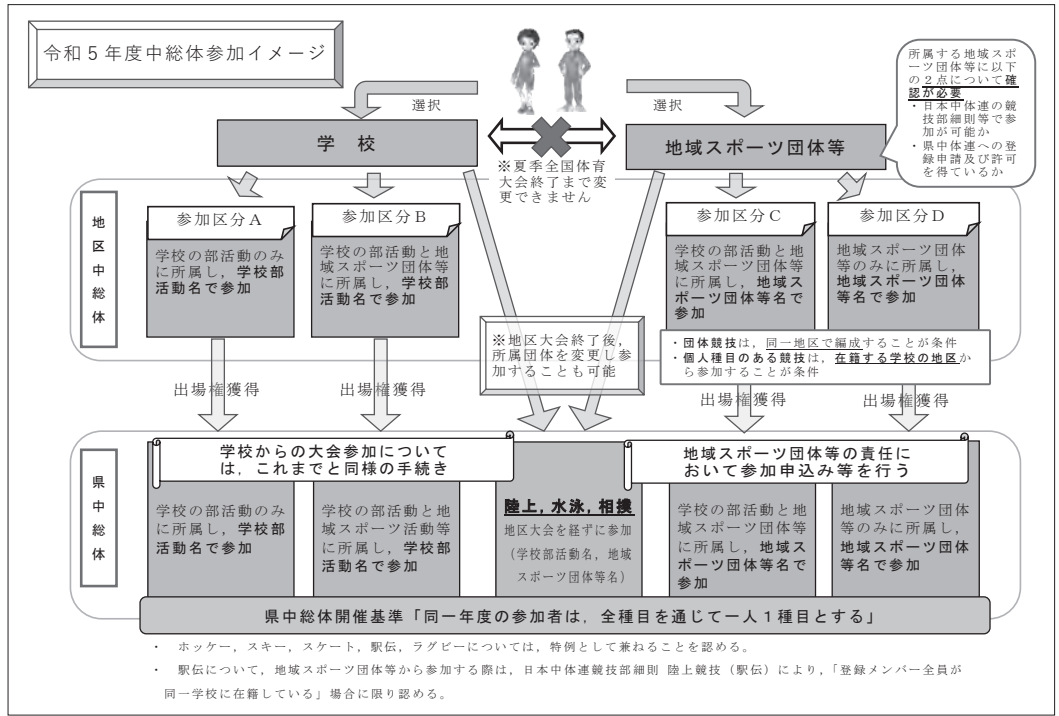
令和5年度の地域スポーツ団体等の参加条件

「地区中総体からの参加を原則とする(ただし陸上、水泳、相撲は県中総体からの参加)」。団体種目は同一地区の学校に在籍する生徒のみで編成すること。個人種目は、在籍する学校の地区から参加することも可能。また、競技によって参加できる条件が異なる」としました。

学校部活動と地域スポーツ団体等のどちらにも所属している場合は、両方で活動する

ことは可能、中総体の参加については、どちらで参加するのか選択することとしました。なお、条件等の詳細については資料は、本連盟のホームページに掲載していますし、今後

更新していく情報についても随時ホームページに掲載していきます。



【図1】中総体参加イメージ



令和5年度地域スポーツ団体等の中総体参加状況は？

本連盟への登録を認められた団体は、9種目（陸上、水泳、サッカー、バレーボール、ソフトテニス、卓球、バドミントン、剣道、相撲）21団体でした。地区の内訳は、二戸地区1団体、岩手地区1団体、盛岡市5団体、花巻市1団体、和賀地区1団体、胆江地区1団体、一関地方3団体、気仙地区3団体、宮古地区1団体です（陸上の2団体、相撲の2団体を除く）。この中で、地区大会を勝ち

抜き県中総体に参加した団体は6種目（陸上、サッカー、バレーボール、バドミントン、剣道、相撲）10団体でした。

今後に向けて

生徒のスポーツに関する多様なニーズに応えられる施設や環境は、県内でも地域によって差があり、そのニーズを満たす場合は学校部活動である場合が多いと考えられます。本県の運動部活動は、これまで地域の実情に合わせた形で実施してきましたが、生徒数の減少や学校外のスポーツ活動に取り組む生徒の増加により単独校でのチーム編成が困難になってきているなどの課題や、在籍する中学校に小学校から取り組んでいるスポーツの部が設置されていないなどの現状もあります。長きにわたる中体連の歴史の中で最も大きな改革と云うべき「地域移行に向けた検討」ですが、運動部活動やスポーツ活動に励んでいる中学生の「心豊かな成長」を第一に考えながら、その主役である中学生の成長を支えていくとい

プロフィール

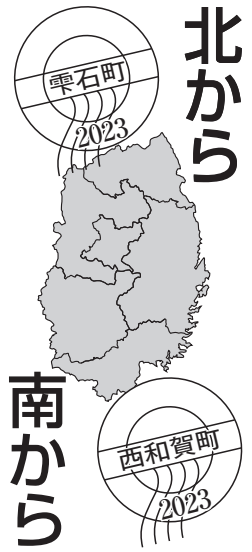


小野 甚市
(おの じんいち)
平成6年度から教員生活をスタートし、岩手大附属中勤務を最後に教育行政へ異動。宮古・中部・盛岡教育事務所、県教育委員会の勤務を経て令和4年度から現職。

う姿勢を大切に、関係機関と連携を図りながら今後も取り組んでいきます。



特色あるPTA



「より豊かな環境を整える」PTA 活動をめざして

西和賀町立湯田中学校PTA



重いプールフェンスの取り付けはなかなかの作業です

本校は奥羽山脈の山間地域に位置し、町全体が標高240m以上の高地にあります。内陸型の気候で、冬季における積雪は2mを超えることもあり、県内有数の豪雪地帯として有名です。そうした地域性もあり、四季の変化に合わせた環境整備を中心とする、



草刈り機と手作業での除草作業です

特色のあるPTA活動が行われています。春、四月初旬に、運動会に向けての雪割り作業が行われます。この時期には校庭に固い雪が残っていることが多く、その雪を砕いて校庭を早く使えるようにします。また積雪による破損を防ぐために撤去

していたプールフェンスや防球ネットの設置を行います。夏、六月下旬に、校庭の除草を行います。山間の学校でとても雑草が生えやすいため、多くの保護者が家庭用草刈り機を持ちこんで作業します。

秋、十一月初旬に雪囲いを行います。雪捨て場となるプールのフェンスを撤去し、防球ネットをもち上げます。

秋、十一月初旬に雪囲いを行います。雪捨て場となるプールのフェンスを撤去し、防球ネットをもち上げます。

子どもたちのために

雲石町立御明神小学校PTA

本校は、平成三十年に旧御明神小学校と橋場小学校が統合し、御明神小学校が開校しました。全校児童七十一名、四十七世帯の学校です。統合する以前からPTA活動が盛んで、「児童のために」「児童が中心」という考えの保護者が多くいます。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために活動が制限される前は、「おもちつき」や「そば打ち」など、PTAや地域の方との交流がたくさん行われていました。

今年度は、コロナ感染症の扱いが変化する中、現状を見極めながらPTA活動を進めている状況です。そのような

状況の中でも地域や保護者の協力を得て取り組んだ活動を二つ紹介します。

状況の中でも地域や保護者の協力を得て取り組んだ活動を二つ紹介します。

どの活動日も参加率は高く、みんな積極的に活動します。雪で校庭の使用期間が短いため、生徒たちの活動を少しでも長く、快適にさせたいという保護者の思いがとてもよく伝わってきます。

今年度も保護者と協力しながら、生徒にとってより豊かな学びの環境づくりを進めてまいります。

（事務局 金野暁人）



令和元年度のそば打ち体験



保護者による運動会の片づけ作業

指導してくださったそば打ち講師の方を頼りに準備を進めています。

今年度も、地域の方のご協力をいただきながら、保護者と教職員の連携を図り「児童が中心」の活動を進めていきたいと考えています。

（事務局 及川公子）

おめでとーございませう

本年度の全国・東北での表彰受賞者の皆さんを紹介しませう(敬称略)

- ◆優良 PTA 文部科学大臣表彰 一関市立弥栄小学校 PTA、紫波町立紫波第三中学校 PTA
- ◆PTA 活動振興 功労者表彰 田口昭隆、岩館智子
- ◆日本 PTA 全国協議会 会長表彰
 - 団体の部 盛岡市立上田中学校 PTA、釜石市立唐丹小中学校 PTA
 - 個人の部 川又康主、星野賢志郎、菅原 淳、鈴木 繁
- ◆日本 PTA 創立 75 周年記念特別表彰 田口昭隆、岩館智子、玉館 誠、関 潤、高木正基、壽松木亨、浦田 学、藤岡大樹、松田恵市、小松順一、樋下照男、菊池敏宏、佐藤康之、中村庄藏
- ◆東北ブロック PTA 協議会 会長表彰 (感謝状) 岩館智子 (前会長)、菊池敏宏 (前事務局長)
- ◆東北ブロック PTA 協議会 会長表彰 (表彰状)
 - 団体の部 洋野町立角浜小学校 PTA (久慈)、盛岡市立巻堀中学校 PTA (盛岡) 矢巾町立矢巾中学校 PTA (紫波)、奥州市立衣川小学校 PTA (胆江) 山田町立豊間根小学校 PTA (宮古)
 - 個人の部 岩館智子 (前会長)、川又康主 (前副会長)、星野賢志郎 (前副会長) 菅原 淳 (前副会長)、鈴木 繁 (前副会長)



東北 PTA 表彰

一般社団法人岩手県 PTA 連合会 共済事業 通院・入院 1 日目から共済金をお支払いしませう

岩手県 PTA 連合会で行っている『共済事業』では、2022 年 4 月 1 日以降に発生した事故から、通院・入院 1 日目から共済金をお支払いしませうしています。対象となるのは、日本国内における急激・偶然・外来の事故により、学校管理下外または PTA 行事に参加している間に被った傷害についてです。なお、接骨院 (整骨院) で柔道整復師の施術を受けた場合に

は、これまでと変わらず医師の治療を受けた後に、医師の同意のもとでの施術を受けた場合のみ共済金のお支払いの対象となります。

詳しくは、学校から配布していただいている、『2023 年度 共済事業のご案内』(オレンジ色)、『2023 年度 共済事業ガイド』(ピンク色) をご覧ください。

編集後記

ご寄稿をいただいた、飯豊中 PTA、湯田中 PTA、御明神小 PTA、県中体連の小野甚一理事長様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。8 月の全国研究大会広島大会、10 月の東北ブロック研究大会富谷黒川大会と予定されていた研究大会も順調に開催されています。12 月はいよいよ県研究大会宮古大会です。多くの会員の皆さまで有意義な大会となる事を願っています。